

学外研修報告

令和3年度 機器・分析技術研究会 in 山口宇部に参加して

共通機器部門 共通利用機器管理班 藤高 仁

1. はじめに（目的等）

本研究会は、各教育・研究機関の機器分析に携わる技術職員が、日頃の業務の成果等を討論するものである。本研究会を通じて全国の技術職員と交流し日常の業務遂行に役立てるために出席した。また研究会終了後本研究会の開催・運用を決定する地域代表者会議への出席と機器・分析センター協議会技術職員会議の進行及び協議会本会での報告内容の協議を行った。

2. 期間・場所

期間：2019年9月9日～10日

場所：山口大学常盤キャンパスよりオンライン開催

3. 参加者等

大学、高等専門学校、大学共同利用機関等 62 機関の技術職員 396 名以上

4. 研修内容

初日に特別企画「研究や展示で役立つ標本作成法」下関市立自然史博物館豊田ホテルの里ミュージアム 川野敬介氏、基調講演「「宇部方式」を SDGs 未来都市に活かす」NPO 法人うべ環境コミュニティー 理事長、山口大学名誉教授浮田正夫氏、労安シンポジウム講演①「危機管理（防火・防災）の取り組みについて」大阪大学大学院情報科学研究科バイオ情報工学専攻大倉重治氏と 3 つの講演があり 2 日目にポスター発表、労安シンポジウム講演①「危機管理（防火・防災）の取り組みについて」大阪大学大学院情報科学研究科バイオ情報工学専攻大倉重治氏、労安シンポジウム講演②「労働安全衛生の取り組みについて」株式会社 UBE 科学分析センター 取締役分析部門長倉田茂夫氏、労安シンポジウム講演②「二酸化炭素濃度モニターの作成について」山口大学総合技術部田内康氏の様なプログラムで開催された。

5. まとめと感想

機器・分析にかかわる教育研究機関等の技術職員の発表と交流の場として開催されてきたが昨年につきオンライン開催となった。どの講演も大変貴重なお話であったが特に自然史博物館豊田ホテルの里ミュージアム 川野敬介様の話は普段私が取り扱うことのない生物を中心とした試料作製のお話で一般の来場者に理解しやすくかつ興味を持ってもらうための見せ方の工夫や苦勞を聞かせていただき、今後業務においてデータの示し方について大変参考になった。今後も継続して研究会の開催を支援し自らの技術向上にも役立てたいと思う。